

# 「真面目に努力して いけば必ず強くなる、 それが自信になる」



## よしだ 吉田 ゆかり さん

昭和40年生まれ、39歳。  
花川南バレーボール少年団監督。練習を終えて自宅に帰れば“監督”から1男4女の“母”の顔に戻るが、末子以外の全員がバレー選手とあって、家でもバレーボール談議が尽きない。

日本一を目指し、全国各地から6千ものチームが参加する「全日本バレーボール小学生大会」。この南・北海道大会で、9年ぶり4度目の優勝を果たし、見事全国大会出場の切符を手に入れたのが、吉田ゆかり監督率いる「花川南バレーボール少年団」の女子チームだ。

23年の歴史を持つ同少年団は、これまでにも数多くの輝かしい戦績を残している。今回の地区大会でも、準決勝、決勝ともにストレート勝ちという圧倒的な強さを誇るが、吉田監督は、「実は、今回負けたら私のせいだと、これまでにないプレッシャーを感じていたんです」とうち明けた。勝ち進むにつれて、対戦相手は強豪チームがずらり。



▲花川南バレーボール少年団の皆さん。

旧知のライバルを前に眠れない日もあったという。しかし、当の子どもたちはけろりとしたもので、のびのびと普段の力を出し切り、精神面の強さを垣間見せた。

バレーボールは小学生の場合、体の大きさが勝敗が決まってしまうことがあると言われる中で、吉田監督は言う。「うちのチームは身長や運動能力がずば抜けているわけではないんです。ただ、粘り強さがあります。例えば3点以上得点差をあけられないような、崩れない力や逆転する力がある」。子どもたちの強さを評価する吉田ゆかり監督がバレーボールに出合ったのは小学校6年のときだ。以来、中学、高校とバレー漬けの青春。特に、高校時代は強豪校で練習も厳しく、卒業す

ると「もうバレーボールはしない！」と思ったほど。しかし、そんな吉田さんが再びコートに戻ったのは石狩市に引っ越して間もなくのこと。育児も一段落したころ、バレーボールが恋しくなり地元ママさんバレーに参加。そこから縁あって娘さんが所属する同少年団のコーチに就任し、4年前から監督として指導に当たることになった。

「当初は、みんな楽しんでバレーができればそれでいいと思っていました。でも、一生懸命ボールに食らい付く姿を見ていたら、この子たちを勝たせてやりたいと血が騒ぎ出したんです」

熱血監督の指導はさぞかしハードだろうと思ったところ、意外にも、がむしゃらに量をこなす内容のものではなく短時間集中型。決して技術面に片寄らず、走り込みなどの基礎トレーニングが中心だ。ただし吉田監督は、「人の話をきちんと聞くこと、あいさつをすること、手を抜かないこと」についてはめっぽう厳しい。「真面目に努力していれば必ず強くなる、それが自信になる」と教えていきたいからだと言う。

今年のチームは、努力家ぞろい。8月7日から東京で開かれる全国大会に向けて、練習にも一段と熱が入ってきた。

▼今月、13日からギリシャのアテネで開催される第28回オリンピック競技大会。今回、私が日本人選手が出場する競技の中で特に応援したいのは、バレーボールの女子。前回の2000年第27回シドニー大会では出場を逃した女子チーム。今年は何と言っても「メグ・カナ」が登場し、その「若い力」と「ベテラン勢のうまさ」が、かみ合っているように見えます。キャプテンの吉原さんをはじめ、北海道出身の選手もいます。ぜひ、完全燃焼してもらいたいですね。「頑張れ、日本！」(J)

▼海開きの取材に行きました。実は、夏の海へ出向いたのは16年振りで、そのためうっかりしました。波打ち際、夢中になってシャツタウを切っていたら、突然、足元が冷たくなりました。見れば、我が片足はどつぶり海の中。もちろん、運動靴を履いてのことです。海ではやっぱり裸足か、ビーチサンダルまたは某テレビ局カメラマンさんのように長靴に限ります！(D)

### 広報いしかり

■編集・発行／石狩市企画財政部市民の声を聴く課  
〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2  
Tel.0133-72-3153 Fax.0133-74-5581  
【ホームページ】 <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp>  
【携帯電話用HP】 <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/k/>  
【Eメール】 [PR@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:PR@city.ishikari.hokkaido.jp)  
■印刷・製本／株式会社アイワード  
この広報紙は再生紙を使用しています。  
印刷インキは、大豆を利用した植物油インキを使用しています。

